

授業科目(ナンバリング)	相談援助の基盤と専門職 A(DA104)			担当教員	野田 健		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	1 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>「相談援助の基盤と専門職A」は、人間尊重とホスピタリティの醸成を図ることを基軸に据え、下記の3点を授業のねらいとする。①社会福祉士の役割と意義について理解する。②精神保健福祉士の役割と意義について理解する。③相談援助の概念と範囲について理解する。</p> <p>また、精神保健福祉士を目指す学生においては、上記に加え、精神障害者支援に必要な相談援助における共通基盤や専門職倫理を修得することをねらいとし、介護福祉士を目指す学生においても、社会福祉専門職としての共通基盤を修得するとともに、<u>人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を修得することをねらいとする。</u></p> <p>なお、これらのねらいを達成していくため、この授業はアクティブ・ラーニング類型①⑥⑨に沿い、ポートフォリオを活用しながら、小テストやディスカッション等を行っていく。</p>							①⑥⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	相談援助について理解し、また、専門知識・倫理を適切に表現することができる。					定期試験	50%
情報収集、分析力	専門職者としての視点から援助対象に関する情報を収集することができ、またそれら情報をもとに実践を分析することができる。					小テスト	15%
コミュニケーション力	その時間、その場所に適したふるまいや態度を選択し、実行することができる。					授業態度	5%
協働・課題解決力	相談援助の基盤と専門職に関する課題を、個人やグループで考察し、解決することができる。					授業内課題	15%
多様性理解力	グループディスカッションを通じて、考え方の多様性を理解するとともに、それを受け入れることができる。					授業内課題	15%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>定期試験（50%）：筆記試験の形式にて行い、持ち込みは不可とする。出題形式は、概ね社会福祉士国家試験と同様とする。</p> <p>授業態度（5%）：普段の授業中の態度、授業内課題やグループディスカッションの取り組み具合をもって評価する。</p> <p>小テスト（15%）：5・10・15 コマに復習を目的に行う。出題形式については、授業中に情報提供を行う。</p> <p>授業内課題（30%）：随時、ポートフォリオや配布資料を基に実施する。形式等については、授業中に情報提供を行う。</p> <p>フィードバック：小テストや授業内課題は、授業中に評価・解説する方法を用いてフィードバックしていく。</p>							
授業の概要							
<p>「相談援助の基盤と専門職A・B」は、相談援助総論やソーシャルワーク総論ともいべき科目である。そのため、今後履修するであろう「相談援助の理論と方法」や「相談援助演習」等を通して理論に基づいた実践や実践の理論化ができるよう、社会福祉専門職としての基盤固めを行っていく。については、本講義では社会福祉士や精神保健福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲について、実践事例検討（ディスカッション等）を織り交ぜながら学修していく。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：社会福祉士養成講座編集委員会編（2015）『新・社会福祉士養成講座6 相談援助の基盤と専門職』中央法規</p> <p>参考書：空閑活人（2009）『ソーシャルワーク入門』ミネルヴァ書房（専門用語理解に活用）</p> <p>指定図書：F・P・バイステック／尾崎新他訳（2005）『ケースワークの原則〔新約版〕—援助関係を形成する技法』誠信書房</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>適宜、実際の事例、新聞記事、DVD映像、社会福祉士国家試験問題（過去問）などを通して授業を進めていくので、教科書で学修した内容をさらに深めて理解してもらいたい。</p> <p>講義は教科書の朗読を指名して行うことがあるため、読めない漢字にはふりがなをつけておくなど予習は必ず行うこと。大学での講義であるので、大切なものは自分で判断して、教科書に記載している内容も含めてノートに書く（メモを取る）習慣を身につけること。復習としては、知識の定着を兼ねてノート整理に努めること。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	相談援助とソーシャルワーク	自己覚知と他者理解について触れながら、相談援助とソーシャルワークについて学ぶ。	予習：はじめにを読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
2	社会福祉士(ソーシャルワーカー)の仕事	DVD映像や実際の事例を通して、社会福祉士(ソーシャルワーカー)の仕事学ぶ。	予習：配布資料を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
3	社会福祉士の役割と意義①	社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法における位置づけ、社会福祉士の見直しおよび法改正の背景を学ぶ。	予習：1章1節を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
4	社会福祉士の役割と意義②	社会福祉士の役割と意義について、現代社会と地域生活の視点や <u>自立の概念</u> を踏まえながら学ぶ。	予習：1章2節を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
5	社会福祉士の役割と意義③	DVD映像などを通して実際の事例を体感し、実際の支援や社会福祉の価値、倫理について学ぶ。	予習：1章全体を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
6	ケースワーク①	バイスティックの7原則をDVD映像(前編)や実際の事例を通して学び、バイスティックの7原則を暗記する。	予習：配布資料を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
7	ケースワーク②	バイスティックの7原則をDVD映像(後編)や実際の事例を通して学び、バイスティックの7原則を暗記する。	予習：配布資料を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
8	相談援助の定義と構成要素①	国際ソーシャルワーカー連盟や全米ソーシャルワーカー協会の定義を学ぶ。また、それらの定義から <u>人間の尊厳と人権・福祉理念</u> について理解を深める。	予習：2章1節を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
9	相談援助の定義と構成要素②	クライアントシステム、ニーズなどのソーシャルワークの構成要素を学ぶ。	予習：2章2節を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
10	相談援助の定義と構成要素③	ソーシャルワーカー、社会資源などのソーシャルワークの構成要素を学ぶ。	予習：2章3節を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
11	相談援助の形成過程Ⅰ①	ソーシャルワークの前史、慈善組織協会(COS)、セツルメント、YMCAなどのソーシャルワークの源流(～1900年代)を学ぶ。	予習：3章1節を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
12	相談援助の形成過程Ⅰ②	ケースワークの確立、ソーシャルワークの専門化、世界恐慌・大不況とソーシャルワークなど、ソーシャルワークの基礎確立期(1890～1930年代)を学ぶ。	予習：3章2節を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
13	相談援助の形成過程Ⅱ①	診断主義学派と機能主義学派、グループワーク、コミュニティ・オーガニゼーションなど、ソーシャルワークの発展期(1940～1950年代半ば)を学ぶ。	予習：4章1節を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
14	相談援助の形成過程Ⅱ②	貧困戦争、パルマンの問題解決アプローチ、ソーシャルワークモデルの乱立など、ソーシャルワークの展開期(1950年代半ば～1960年代以降)を学ぶ。	予習：4章2節を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
15	相談援助の形成過程Ⅱ③	ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・ソーシャルワークの成立(1960年代～)を学ぶ。	予習：4章3節を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
16	定期試験		